

「函館市基本構想（原案）」に対するパブリックコメント（意見公募） 手続の実施結果について

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 案件名    | 「函館市基本構想（原案）」                |
| 募集期間   | 平成28年9月28日（水）～平成28年10月27日（木） |
| 担当課    | 企画部計画推進室新計画策定担当              |
| 意見提出者数 | 団体 3団体 個人 7名（意見総数35件）        |

「函館市基本構想（原案）」に対する意見の概要と市の考え方

※ 意見の概要については、原文を要約および分割して載せています。また、基本構想全般を通した市の考え方については、以下のとおりです。

※ 基本構想全般を通した市の考え方

「函館市基本構想（原案）」は、長期的な視点に立ち、めざすべき将来像とその実現に必要なまちづくりの基本的方向性や目標などを示すもので、平成29年度からの10年間に、市民、企業、団体、行政など、まちづくりのあらゆる主体が一体となって取組を進めるための指針としての役割を担うものです。

いただいたご意見のうち、具体的取組に係る内容につきましては、今後のまちづくりの取組にあたっての参考とさせていただきます。

| No | 意見の概要  | 市の考え方   |
|----|--|---|
| 1  | <p>安心して暮らしていくには付近の小さなコミュニティ、町内会よりももっと小さいものから考えていくのが良いと思う。現状では、高齢者の単身世帯や空き家がどこにでも見られるようになり、買い物も大変になっている。また、個人主義の傾向が強くなり、隣近所の様子に無関心になるなど、地域の崩壊が進行していると感じる。地域住民の絆や繋がり復活のため、行政としては、小さな地域単位の実情把握に努め、空き家や空き地などを活用して中核となるコミュニティ施設を市内数カ所に試験的に設置し、これを中心として、小さなコミュニティを形成する。こうした取組が住民の絆や繋がりを取り戻し、安全・安心の函館のまちづくりにも直結すると考えられる。また、施設については、設計段階から運営まで、地域住民が自ら関わることで、第二の自宅のような施設として地域に根付くものになると考える。</p> <p>（他類似意見1件）</p> | <p>いただいたご意見は、基本構想の趣旨と合致していますので、今後とも、地域を支える人材の育成・確保や地域社会全体で支え合う環境の整備など、市民の皆様とともにまちづくりを進めていきたいと考えています。</p> <p>なお、具体的取組に係るご意見については、今後の市政にあたって参考とさせていただきます。</p> |

|   |  |   |
|---|--|---|
| 2 | <p>基本構想における重点プロジェクトの中に「スポーツ振興」を加えて欲しい。具体的には、Jリーグ加盟を目指すプロサッカークラブを作って欲しい。函館には社会人チームがあり、函館フットボールパークも完成した。市民の近くに目標となるプロ選手やチームの存在があれば、スポーツへの関心も高まるとともに、経済効果も期待でき、函館のまちをより豊かにすることができるのではないか。</p>                       | <p>重点プロジェクトについては、本市が抱える課題と今後のまちづくりの方向性を踏まえたうえで、特に重点的に取り組むべきものとして、「経済再生」、「魅力向上」の二つを掲げ、市民の皆様とともにまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>また、スポーツ振興については、「第5章2（3）いつまでも生き生きと暮らせるまちをめざします」の中で取り組んでいきたいと考えています。</p> |
| 3 | <p>他都市には、自助・共助・公助を生み出す仕組みとして、地域振興協議会の設立など、企業、福祉施設、ボランティア等が関わり、地域の再生に共に取り組むなど多くの事例がある。地域住民が協力し支え合うことで健康率の上昇や犯罪率の低下などにつながり、他人を信頼できる地域、まちをめざすことが重要である。また、何でも行政に、誰かに頼るだけでなく、自らできることを考え、人のために行動する、ボランティア意識が重要である。</p> | <p>いただいたご意見は、基本構想の考え方と合致していますので、市民の皆様と協働して、ともに支え合うまちづくりを進めていきたいと考えています。</p> <p>なお、具体の取組に係るご意見については、今後の市政にあたって参考とさせていただきます。</p>  |
| 4 | <p>人間の身勝手な行動により犠牲になる小さな命を大切にすることに力を入れて欲しい。殺処分ゼロに向けた事例として、行政とボランティアの連携など、小さいことから改善していくことでまちの発展につながると思う。</p>   | <p>小さな命を大切にする取組は、地域全体を大切に思う心の育成につながるものと考えます。</p> <p>いただいたご意見は、市民の皆様とともに、生き生きと暮らしていくことができる環境整備に取り組むにあたっての参考とさせていただきます。</p>   |
| 5 | <p>本当に函館市民で良かったと思えるようなまちづくりが進むように願っている。</p>  | <p>市民の皆様とともに力を合わせ、函館に住み続けたいと思っていただけるようなまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。</p>  |
| 6 | <p>「第5章2（5）持続可能な都市の基盤を構築します」において、地球温暖化防止の新たな国際的枠組みが開始することや、省エネ法の改正など、地球環境対策に大きな動きがあることから、「省エネ・再生可能エネ」を明確に打ち出していただきたい。「自然環境の保全に取り組む」の表現ではインパクトが弱いと思う。</p>   | <p>いただいたご意見のとおり、今後起こりうる地球環境の変動など、社会情勢の変化を的確に捉えたうえでまちづくりに取り組む必要があります。第5章において、エネルギー問題も含め、自然環境の保全に取り組んでいくこととしています。</p>   |

|    |   |  |
|----|---|--|
| 7  | <p>住民の健康寿命を延ばし、重症化予防のため、また、子ども・妊産婦・アレルギーなど感受性の高い方を含めた非喫煙者を受動喫煙の危害から守るために、健康づくりや子育て支援に係る、受動喫煙対策を重点施策として取り組んで欲しい。</p> | <p>本市では、これまでも受動喫煙対策に取り組んできており、今後とも、健康づくりや子育て支援などの観点から、市民の皆様が安全・安心に暮らすことのできるまちづくりを進めていきたいと考えています。</p>   |
| 8  | <p>将来人口について、仮定の数字を示すのであれば、例えば、企業誘致による効果など、社会的諸条件を勘案して人口を試算することが望ましい。人口増のために何をすべきかを主たる目的に考えるべきである。</p>               | <p>日本全体の人口が減少し、社会情勢が目まぐるしく変化するなか、将来人口に市の単独施策による効果を勘案することは非常に困難であることから、将来人口は、平成27年に策定した「函館市人口ビジョン」における人口推計を活用し、基本構想の目標年次である平成38年の推計人口を示しています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の人口推計など、市政の推進にあたって、参考とさせていただきます。</p> |
| 9  | <p>交通については問題が山積している。道内の鉄道路線はほとんどが切り捨てられ、バスや自家用車が交通手段の中心となる。新幹線開業による効果は一時的なものであることを認識しなければならない。</p>                  | <p>交通に関する問題や新幹線開業の効果については、ご指摘のとおりと考えており、今後は、公共交通の再編など、各種取組を進めていくとともに、新幹線開業による効果を持続的なものにできるように、市民の皆様とともにまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。</p>   |
| 10 | <p>函館人による函館市の反映を築くのが本当の故郷愛と地元住民の本心であり、函館市が未永く生き残り、未来の函館市として歴史を継承する義務であると考ええる。</p>                                   | <p>いただいたご意見は、基本構想の趣旨と合致していますので、函館に住むだれもが、地元への愛着心を育み、住み続けたいと思えるまちづくりに取り組むとともに、これまで先人達が培ってきた函館市の歴史や文化を未来へ引き継いでいくための取組を進めていきたいと考えています。</p>  |
| 11 | <p>目標年度を2026（平成38）年度としているが、100年先を目標に持ち続けていただきたい。計画期間を固定するのも良いが、将来を見越して自然界の変化や脅威を取り入れた策定内容にしていきたい。</p>               | <p>基本構想は、目標年次を10年後の平成38年度としておりますが、いただいたご意見のとおり、まちづくりを進めるにあたっては、より長期的な視点をもって、各種の取組を進めていきたいと考えています。</p>  |

|    |   |   |
|----|---|---|
| 12 | <p>日本民族の存続を最優先に考えて、民族と民族文化の存続と継承を願い、平凡でも良いが歴史的習慣の日常を求めたい。</p>   | <p>今後とも、函館市の魅力の源泉である郷土の歴史を継承し文化の振興を図るための取組を進めていきたいと考えています。</p>  |
| 13 | <p>人口減少問題は、日本社会の現状改革が必要である。また、東京一極集中による地域間格差の問題は、このまま続くとは考えられない。一極集中が続いても函館市にどれだけの影響があると思うのか。</p> <p>地方自治体は国に左右されずに、正しい行政を執行し、独自に調査判断したうえで対処していくべきである。</p>                                  | <p>人口減少問題は、一自治体の取組だけでは解決が困難であり、国の抜本的な対策が必要不可欠であると考えています。</p> <p>一方で、人口減少の要因は、各自治体において様々であることから、本市独自の減少要因の分析に努め、今後の取組につなげていきたいと考えています。</p> |
| 14 | <p>食料不足は日本だけではなく、世界中の問題である。函館市としては、北海道民全体の立場を第一に考慮し、基本的な最低限の食料を確保することを共有すること。</p> <p>また、北海道は日本における食糧の主産地といっても過言ではない。食糧生産を国家の基本に考え、異常気象による農業の危機対策を第一とし、農業を最優先に位置付けて、食料自給率の向上に努めなければならない。</p> | <p>いただいたご意見のとおり、農業の生産基盤となる農地の保全に努めるとともに、一次産業の振興の取組を進めていきたいと考えています。</p>  |
| 15 | <p>エネルギー不足は世界的な傾向であるが、原子力は安全だという最終的な結論が見出せないなか、太陽光や小水力、潮流などの自然エネルギーを活用することが必要である。中でも、河川を利用する水力発電は、日本の国土に合致していると考えられる。</p>   | <p>いただいたご意見は、基本構想の考え方に合致するものであり、本市にある資源を有効に活用した取組を進めていきたいと考えています。</p>   |
| 16 | <p>超高齢社会への対応として、国に頼らず地域住民の知を生かし、住民の知恵と財力を結集して函館の地形や風土、気候に合致した地域の取組を計画にしてまとめる必要がある。</p>  | <p>少子・高齢化の進行や地球環境の変動など、社会情勢の変化を的確に捉え、本市が抱える様々な課題の解決に向け、市民の皆様をはじめ、企業、団体などとともにまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。</p>                                   |

|    |  |   |
|----|--|---|
| 17 | <p>人口問題は永年の課題であり、人口減少の原因とその先の要素を把握することが大事である。人口問題の解決には、市職員や市民の公募など、幅広く意見を求めることがよりよい意見の把握につながると考える。また、地域の発展には、住民はもとより、優良企業と産業が継続的に地元根付くことが必要である。</p> <p>また、函館市の経済の状況について、地域に根付く企業の誘致や起業化の支援などの取組が考えられる。誘致には、相手の条件提示などがあるため、できるかぎり地元住民による起業化による定着が望ましい。そのために、既存企業は現状に満足せず、経営や商品に付加価値を付け、他との差別化を図り、親子代々まで続く、函館に根付く企業の出現を望む。</p> | <p>いただいたご意見のとおり、本市の人口減少要因とその影響を把握し、その課題解決に向けた取組を進めることが、今後のまちづくりにおいて大変重要なことであると考えています。</p> <p>基本構想では、本市の人口減少の要因の一つである、若年層をはじめとする転出超過に歯止めをかけるため、地域経済の活性化を図り、安定した雇用を確保するための「経済再生」を重点プロジェクトとして掲げ、地域経済の活性化に優先的に取り組んでいくこととしています。</p> <p>なお、具体的取組に係るご意見については、今後の市政にあたって参考とさせていただきます。</p> |
| 18 | <p>まちの活性化には、子どもから高齢者まで生きがいある生活を送ることができる社会の創造が大切であり、特に、学校・家庭・地域が一体となった教育環境の整備や、子どもたちの情操を育む教育が必要である。また、共働きや核家族化など家族関係が変わってきているなかで、親子参加型のコミュニティの場の提供などについて積極的に検討して欲しい。</p>  | <p>いただいたご意見は、基本構想の考え方に合致するものであり、地域社会全体で安心して子どもを生み育てられる環境や、子どもたちが、将来へ希望を持ち、たくましく生きることができる環境の整備を進めることが、子どもから高齢者まで、全ての市民の皆様が生き生きと暮らすことができる社会の形成につながるものと考えています。</p> <p>なお、具体的取組に係るご意見については、今後の市政にあたって参考とさせていただきます。</p>  |
| 19 | <p>心身共に健やかに生活し、健康寿命の延伸をめざすうえで、医療と介護と福祉がより一層連携していくことが、医療費の削減、生活習慣の改善、市民生活の質の向上にも繋がっていくと考えられる。</p>   | <p>誰もが健康で安心して暮らせる地域社会の構築に向け、共に支え合うことができる地域コミュニティの形成や、生涯学習やスポーツ活動などを通して心身ともに健康で生きがいをもって暮らせるまちをめざすことができるための取組を進めていきたいと考えています。</p> <p>なお、具体的取組に係るご意見については、今後の市政にあたって参考とさせていただきます。</p>  |

|    |   |   |
|----|---|---|
| 20 | <p>バス、市電、JRや空港、港などの交通アクセスがばらばらであると感じている。核となるバス停などを整理し、円滑な乗り継ぎなど利便性の向上を図るとともに、空港・フェリー乗り場・駅（新函館北斗駅も含めて）をバスで結び、観光やビジネスなどの利用に繋げるべきだと思う。</p>   | <p>いただいたご意見は、基本構想の考え方に合致するものであり、今後も人口減少が続くことが見込まれるなか、限られた財源のなかでも、市民生活の利便性を維持するため、公共交通の再編などに取り組むこととしています。</p> <p>なお、具体の取組に係るご意見については、今後の市政にあたって参考とさせていただきます。</p> |
| 21 | <p>市街地を活性化するため、市内のシャッター通りを把握し、地域に応じた特色を発掘する必要がある。地域毎に拠点を決め、特性に応じて業種を割り振って専門街を作り、他職種が交流するなど新しい事業を起こす取組が必要である。例えば、70年、80年代以降の玩具を集めた大人も遊べるおもちゃスタジオの設置や、空店舗を就労支援事業所に施設外就労として貸出し、事業化を支援する取組などが考えられる。</p>   | <p>いただいたご意見は、基本構想の考え方に合致するものであり、中心市街地の活性化は、本市のまちづくりにおいて大変重要な取組のひとつであると考えております。</p> <p>なお、具体の取組に係るご意見については、今後の市政にあたって参考とさせていただきます。</p>                           |
| 22 | <p>目の不自由な方が利用されるガイドヘルパーの数が不足している。市役所などの公共施設や商業施設、主要な駅などにもガイドヘルパーの配置が必要だと思う。市職員に対して介助指導を行う指導員の養成も必要である。</p> <p>また、障がいのある方が自由に動ける環境整備が必要である。動きやすく、働きやすく、お金を使いたくなるような道を作って欲しい。道路が狭いうえにひずみ・歪みが多く凹凸なのもマイナスだと思う。冬の除雪作業も排雪地不足の事情もあつてか歩道が埋まるなど通行に支障がある。雪を捨てられないのであれば、アートに利用したり、圧縮保存して冷蔵、冷凍用に使うなどを考える必要があると思う。</p> | <p>基本構想では、誰もが生涯にわたって活躍し、健康で安心して暮らせる地域社会の構築に向けた取組を進めていくこととしています。</p> <p>なお、具体の取組に係るご意見については、今後の市政にあたって参考とさせていただきます。</p>  |

|    |   |   |
|----|---|---|
| 23 | <p>観光について、いつ見ても新しい発見があると思えるようなイメージづくりをしてほしい。</p>  | <p>いただいたご意見は基本構想の考え方に合致するものであり、本市の強みである都市としてのブランド力をさらに強固なものとするため、新たな魅力を発掘、創出するための取組を優先的に進めていくこととしています。</p>  |
| 24 | <p>高齢者など、気軽に身の回りに相談にのってくれる、アドバイスがもらえる部署があって欲しい。また、誰かの助けを求めるばかりではなく自分にもこれくらいのことならできるということを細かな項目ごとに登録するボランティア部門を作ってほしい。少子高齢化が進み、これからは高齢者同士がともに助け合うのが当たり前と思った方が良くと思う。生活の身の回りのささいなことについて、すぐ駆けつけられる人材リストを作って募集してみたらどうか。誰かの役に立てることで生きがいや人との交流にも繋がると思う。</p>  | <p>これからのまちづくりを進めるにあたっては、ご指摘のとおり、市民の皆様がまちづくりの主役となり、主体的な活動を充実させていくこと、そしてそのために行政が支援していく取組が必要であると考えています。</p> <p>なお、具体の取組に係るご意見については、今後の市政にあたって参考とさせていただきます。</p> |
| 25 | <p>湯の川温泉について、昔は湯の街らしい華やかなものであったが、近年はそれが薄らいでいるため、昔の湯の街らしい風情をもう一度作り出すことができると考えている。昔の湯の川を知る人たちの力を借りて施設をつくり若者を育ててみてはどうか。昔の湯の街の情緒を残したい。</p> <p>また、東山の裏夜景の高台にプラネタリウムを作ってみてはどうか。高台までの交通手段が必要だが、学校の授業などでの活用や、カフェなどの併設によるデートスポットとしての利用も可能ではないか。ただし、あくまでも自然、景観に配慮したものにする必要がある。</p> <p>また、遊歩道にある桜の木について、最近、木によっては根本から腐っていたり、花つきの悪いものも見られる。次の代へ続く苗木を植えるため、市の財政をあてにするのではなく、市民に寄付を募り、桜守の指導を受けながら、植樹を検討してはどうか。</p> | <p>本市が持つ多様な魅力をさらに磨きあげ、美しく住みよいまちづくりを進めるため、魅力ある景観や町並み、市街地の形成に取り組むことが重要であると考えています。</p> <p>なお、具体の取組に係るご意見については、今後の市政にあたって参考とさせていただきます。</p>                      |

|    |   |  |
|----|---|--|
| 26 | <p>本文にある「優位性」という言葉について、「地理的特性と先人の功績」とした方が良いのではないか。</p>  | <p>基本構想に記載している「優位性」については、本市の地理的特性や文化・歴史のほか、交通の要衝として陸・海・空それぞれの交通網が充実していることや、様々な学術研究機関の集積なども含んでいます。</p>  |
| 27 | <p>本文 8 ページにある「魅力ある都市全国第 1 位に選ばれた」は、「魅力ある都市の一つに選ばれた」とした方が良いのではないか。</p>  | <p>「魅力ある都市全国第 1 位」の表記については、民間調査会社による地域ブランド調査において、函館市が全国第 1 位であったという結果を記載しています。</p>   |
| 28 | <p>「第 3 章 2 (3) 協働を進化させるまちづくり」は、「協働を進化させたまちづくり」のほうが良いのではないか。<br/>2 段落目、「一方、行政は」の後に、「積極的に行政情報を公開し」を加えてはどうか。</p>                | <p>市民協働については、これまでの取組をさらに進め、より良いものに進化させていく必要があると考えていることから、「協働を進化させる」と記載しています。<br/>また、積極的な情報公開につきましては、2 段落目に記載の「ともにまちづくりを進める環境整備」の取組のひとつであると考えています。</p>                          |
| 29 | <p>「第 3 章 3 土地利用の考え方」前段について、「土地利用にあたっては、その特性を」を「土地利用にあたっては、その役割を」に変え、また「それぞれの土地の現状や役割を」を「それぞれの土地の現状や特性を」と入れ替えた方が良いのではないか。</p> | <p>土地利用の分類にあたっては、用途の多様性や歴史的背景、豊かな自然環境など、それぞれの土地に備わっている特性を勘案しています。<br/>また、土地利用を進めるにあたっては、土地の現状や求められる役割（例えば、森林は水源のかん養や地球温暖化の防止など）を的確に把握することで、土地を未来へ適切な形で引き継ぐことができるものと考えています。</p> |
| 30 | <p>「第 3 章 3 土地利用の考え方 (1) 市街地」について、「既存資源の有効活用という視点に立ち、住宅と」は「現状を把握し、将来を見据え、既存資源の有効活用という視点に立ち、また各分野との調整を行いながら、住宅と」としてはどうか。</p>   | <p>「現状を把握し、将来を見据え」ることおよび「各分野との調整」については、市街地だけではなく、他の 3 つの分類にも必要な視点であるため、「それぞれの土地の現状や役割を的確に把握するとともに、協働して」という表現で前段に記載しています。</p>   |



|    |  |   |
|----|--|---|
| 31 | <p>「第3章3土地利用の考え方(4) 緑地」に「オープンスペースとしての緑地」が含まれているが、「(1)市街地」に移動した方が良いのではないか。これを踏まえ、分類は「市街地地域」「農林水産地域」「自然公園地域」「森林地域」としてはどうか。</p>   | <p>オープンスペースとしての緑地は、市街地にあるものだけではなく、市街地以外に分布しているものを含めて、広義で緑地としています。</p>   |
| 32 | <p>「第4章 函館市の将来像」について、「北のクロスロード」の意味がわからない。将来像は、現基本構想「人が輝き まちが輝く 交流都市 はこだて」のまま変更せず、サブタイトルとして「市民が安心して暮らすことができるまちづくり」を添えてはどうか。</p> | <p>将来像は、函館に住むすべての人がこのまちに誇りと愛情を持ち、まちの未来のために自ら行動するとともに、国内外からの様々な人と絆を結び、力を合わせともに歩むまちでありたい」という願いを込めて、「北のクロスロード HAKODATE ～ともに始める 未来を拓く～」としています。</p> <p>なお、「クロスロード」とは、交差路や岐路といった意味で、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・函館が、多くの人やものなどが集まる場所となり、多様な価値観を尊重し合い、ともに手を取りあってまちを創っていくこと</li> <li>・函館の持つ様々な優位性を活かし、組み合わせ、新しい魅力を付加し、まちづくりを進めること</li> <li>・経済や社会、文化など様々な分野において人を惹きつけるまちを創ることを表現しています。</li> </ul> |
| 33 | <p>多額の追加予算と設計期間が必要になると思われるが、既存資源である「日の出広路・堀川広路の連続空間」を維持・向上させるため、工事中の巴中学校の建物位置を連続空間から移動させるのはどうか。「ガーデンシティ函館」の計画にも貢献するのではないか。</p> | <p>巴中学校の新築工事については、市議会の議決を得て、平成30年4月の統合校の開校に向けて既に着工しているため、建設位置は変更することはできません。</p>   |
| 34 | <p>建設が計画されている「(仮称)大川団地」の建設地を大川中跡地から五稜中跡地に変更できないか。</p>  | <p>大川中跡地で計画している市営住宅の整備については、団地規模など総合的に検討し、本跡地での整備方針を決定したところであり、現時点において変更は困難であると考えています。</p>  |

|                |  |
|----------------|--|
| 意見等を考慮した結果の修正案 | 意見による修正はありません。   |
| お問い合わせ先        | 函館市企画部計画推進室新計画策定担当<br>電話 21-3821 FAX 23-7604<br>E-mail:shinkeikaku@city.hakodate.hokkaido.jp |